



大阪公立大学共同出版会

No.28

NEWSLETTER

ニュースレター

Osaka Municipal Universities Press (OMUP)

目 次

- OMUP理事長 2014年の年頭に当たって
足立 泰二 …… 1
- 大阪公立大学共同出版会（OMUP）への期待
大阪府立大学 学長 奥野 武俊 …… 2
- 自著を語る（9）
ディスコースにおける「らしさ」の表象
神田 靖子・高木佐知子 …… 2
- 自著を語る（10）
乳幼児をもつ母親のウェルビーイング
川村千恵子 …… 3
- 「著者が語る 第28回OMUPサロン」の報告 …… 3
- 新刊書の紹介 …… 4
- 新顔紹介 …… 4
- 大阪公立大学共同出版会事務局より …… 4
- 編集後記 …… 4

2014年の年頭に当たって



OMUP理事長 足立 泰二

みなさま、新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には輝かしい新春をお迎えのことと存じます。大阪公立大学共同出版会が、任意団体として立ち上がってから14年、非営利活動（NPO）法人格の認証を得てから8年目、「成長・充実期」へと歩を進めつつあります。ときはまさに、府立大学と市立大学の統合問題がクローズアップされていますが、わが出版会は大学統合の不安とは関係なく、両大学に籍を置く教員有志と両大学以外の一般人の参画を得て、学術研究の成果と啓蒙書の刊行を世に問う場を提供するものであります。それと共に、全方位の「学知」に関わる者同志の切磋琢磨を期待するものであります。

さて、新年にあたり、OMUP本年の抱負を申し述べ、皆様

にご賛同を得たいものと思います。出版活動は、人文、社会および自然科学全分野にわたる「学知」の、広く社会への普及・啓蒙活動であります。でき得る限り身近な課題として積極的に取り上げます。一方、グローバルな視点からの展開として、これまでの実績の上に、外国大学出版会とのジョイント・プロジェクトを推進いたします。とくに、若手の先生方の支援を行いたいものです。世界共通語としての英語のみならず、多言語での書籍刊行、販売（北米、欧州および大洋州との協働）を目指すものです。次には、デジタル化対応です。日本語の本を基本に、伝統的日本文化の継承に努めたいものです。紙媒体での印刷を一義とはしつつも、CD、DVD、ICチップを組み込んだオーディオ・ビジュアルな廉価本への挑戦を夢見ております。OMUPの身の程をわきまえつつ、科学の全分野、とりわけ最近言われるところの精神科学（Geistwissenschaft）および科学史を含む歴史に関する書籍を世に発信したいものと思っています。

出版に携わる者として、最も期待する要素は人的資源、人材であります。会員の皆様の優れた出版案件を承るとともに、忌憚ないご意向、ご要望をお申し出いただき、OMUPが着実なステップアップをすることをお誓い申し上げて、年頭のご挨拶と致します。

大阪公立大学共同出版会 (OMUP) への期待



大阪府立大学 学長 奥野 武俊

大学に与えられているミッションは教育・研究であり、最近ではこれに社会貢献が加わっていることは周知のことで、これらの成果は適当な形で公表することが求められています。したがって研究者

の大きな責任はその成果を論文や著作として表すことで、そのために適当な学会誌や出版社を探すことが重要になっています。特に、講義のテキストや著作などを出すためには、出版社が身近にあれば、何かと便利に違いありません。ところが学術書は、必ずしも多く販売できるとは限らないため、出版することがなかなか難しいといわれています。

大阪市立大学、大阪府立大学、大阪女子大学、大阪府立看護大学、大阪府立看護大学医療技術短期大学部の有志が、共同で「大阪公立大学共同出版会 (OMUP)」を作ったのは、このような問題にチャレンジして、少しでも多くの方に、有効活用して欲しいという願いからでした。2005年から「大阪公立大学共同出版会 (OMUP)」は、大阪市立大学と大阪府立大学の有志に引き継がれ、2006年からは特定非営利活動法人 (NPO) として活躍しています。

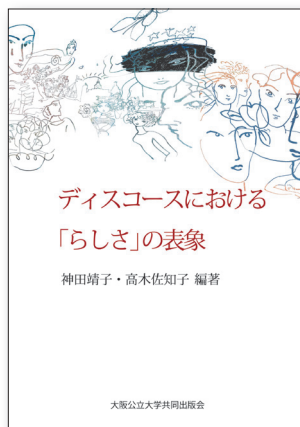
さて、理系の研究分野では、適当な論文集に発表することが第一に求められるようですが、文系の場合には、人事の際にも研究業績として「単著 (研究書) を有すること」が重要視されています。大阪公立大学共同出版会 (OMUP) は、すぐれた研究書をできるだけ容易に出版できる体制をとっており、日本語による出版だけでなく、英語でSpringerと共同出版し、海外で販売した例もあります。これまで出版会を利用された教員は、大阪府立大学で42名、大阪市立大学では21名になっており、合計75冊の本を出版してきました。「大阪公立大学共同出版会 (OMUP)」は、大学の事情を十分に知った上で運営していますので、出版のための費用として研究費や科研費などを使うことも容易にしています。

ただ残念ながら、この出版会のことは両大学内であまり知られていないように思われます。若手の研究者でも容易に出版という形を実現することができますので、これまで以上に、出版会の活動を活発化して教職員が身近に感じられるような工夫や努力を期待しています。また、それをサポートするための何らかの支援策などを大学として検討することも必要かもしれません。

自著を語る (9)

ディスコースにおける「らしさ」の表象

神田 靖子・高木佐知子



ISBN978-4-907209-06-3 C3080
A 5 判、並製本、208頁
定価：本体価格2,400円＋税

早世した詩人、寺山修司はこううたった。「言葉をジャックナイフのようにひらめかせて、人の胸の中をぐさりと一突きするくらいは朝飯前でなければならない」と。詩作の才のない私たちは言葉で一突きすることはできないが、談話分析で社会を斬ろうと思ったのが執筆のきっかけである。

談話分析とは、言葉の裏にある書き手・話し手の発話意図や感情を読み解く分析装置であり、種々の理論が生まれ、その有効性が検証されてきた。実際に使用された言語を分析対象とするものであるから、当然、社会と無縁ではいられない。

テーマとして「らしさ」を選んだ理由はいくつかある。世紀の変わり目ごろから、いわゆる「草食男子」や大人びた子どもたち、また老人らしからぬ高齢者たちが出現している。また、男性に伍して最前線で働くキャリアウーマンの活躍も目覚ましい。彼らは一般に言われる「～らしさ」の定義から逸脱するようにみえるが、本当にそうだろうか。あるいは、ジェンダーや年齢といった、社会における属性そのものに揺らぎが生じているのであろうか？

「らしさ」を維持するものは「言葉によるイメージ形成」である。「～だから」「～のくせに」のように明示的な表現ばかりでなく、何気なく使われた言葉の裏にも発話者の感情・思考が表れ、それが再生産されて循環する。また、言語使用の変化によって、新たなイメージ形成がなされることもある。本書はこうしたイメージを小説、雑誌やブログといったメディアおよび日常会話のディスコースから分析しようと試みたものである。

しかし、本書で用いた道具はどの程度、働いてくれたら

うか。読者の判定をまつしかないが、もしかしたら、もっと鋭く現実をえぐることができたかもしれない。同じ事象も社会学なら、より大きなうねりと捉え、ダイナミックに斬ることもあろう。だから、これが言語学の限界なのかとも思う。しかし別の見方をすれば、言葉という万人が共有するものだからこそ、分析することに意義があるのである。社会のうねりはこのような個々人の言語活動の結果なのだから。

自著を語る (10)

乳幼児をもつ母親のウェルビーイング

川村千恵子



ISBN978-4-901409-97-1 C3036
A 5 判、上製本、145頁
定価：本体価格2,400円＋税

本書は、育児期の女性すなわち母親を主体にし、母親の健康や幸せを捉え直し、母親の健康の本質とこの課題に対応する方向性を探索することを目的としてまとめたものです。

近年の子育て事情は、育児不安や虐待などネガティブなイメージが強く、楽しさや素晴らしさが感じにくくなっています。家族内での個人化志向や社会の価値観の多様化、女性の生き様の変化は子育て環境に大きく影響し、母子を取り巻く環境は厳しい状況にあります。そのような中で、助産師として多くの母子とその家族に出会い、その人たちの多様な経験から培われた強みがあることを感じ、このポジティブな力を活かせる支援方法があるのではないかと考え研究をすすめてきました。まず、健康を「ウェルビーイング」という概念を用いて指標化し、母親の健康を測定できる尺度として開発しました。次にウェルビーイングを高めるためには夫婦関係、家族関係、地域での関係性のなかでの自立することが重要であることを述べました。さらに母親が自己の体験を捉え直す作業としてナラティブ・アプローチの有効性を示し、地域子育て支援の実践への提言を行いました。

出版は初めての経験で、困難さや迷いなどで出版を決意するまでに少し時間を要しました。しかし、ご指導いただいた先生方より後押しをしていただき、在職する大学の出版助成金をいただくことで前に進めることができました。出版の緻密な作業に責任の重さを感じましたが、表紙カバーデザインや形体が整ってくると喜びに変わっていきました。表紙は母が子を包み込み「抱く」イメージで、母親の表情には本書に記した現在の母親の特徴が全て網羅されているように思います。保健・看護学、社会学・社会福祉学、心理学、子ども学など、女性の健康、子育てに関連する分野を学ぶ学生や子育て支援の現場の実践家、これから母親になるであろう女性、家族や地域の方々にも読んでいただきたいと思います。

「著者が語る 第28回OMUPサロン」の報告

2013年11月10日（日）15：00～18：00、3月に出版されてからというものの“長屋再生の重要な記録集”として新聞や業界誌に盛んに紹介されている『いきている長屋—大阪市大モデルの構築』の著者 谷直樹先生を囲んで、第28回OMUPサロンを開催しました。会場は豊崎長屋。現在は生活の場なので一般公開はされていませんが、OMUPサロンのために特別に一部を開放していただき、古民家という独特の空間の中で講演会と食事会を行ないました。長屋見学もあり、本年OMUPに新入会された小池志保子先生がご担当。参加者はスタッフも入れて10名と少なかったのが残念です。

谷先生のお話は出版の経緯から始まり、大阪における長屋の歴史的背景や庶民の暮らしぶりにまでおよび、当初1時間の予定が40分も時間オーバーされる充実した内容でした。長屋見学時には少し雨が降りましたが、再生された長屋の裏側も見せていただき、参加者の皆さんは熱心にメモを取りながら見学されていました。

初めて参加の人にはOMUPサロンの雰囲気、常連の人たちには現地見学といういつもとは異なった趣向に、どちらも大満足していただけたのではないのでしょうか。

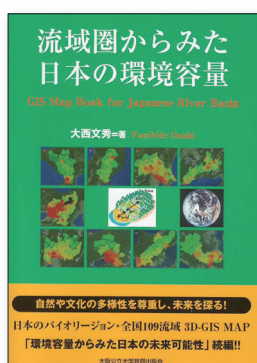
次回のOMUPサロンにはもっと多くの方のご参加を期待しています。

（文責：金井一弘）



「ジャーナリスト作家」ジャン・ロラン論
世紀末的審美観の限界と「噂話の詩学」
辻 昌子 著

ISBN978-4-907209-07-0 C3098
A 5 判、並製本、208頁
定価：本体3,000円＋税



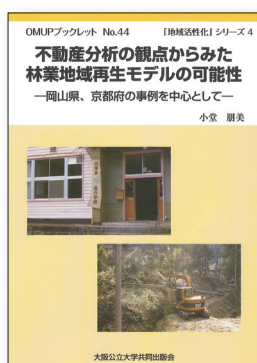
流域圏からみた日本の環境容量
大西 文秀 著

ISBN978-4-907209-08-7 C3051
B 5 判、上製本、222頁
定価：本体3,200円＋税



OMUPブックレット No.43
世代間交流実践の展開
「共生ケア」シリーズ4
中井 孝章 編
福島カヤ子・大西田鶴子 著

ISBN978-4-907209-09-4 C1336
A 5 判、69頁
定価：本体800円＋税



OMUPブックレット No.44
「地域活性化」シリーズ4
不動産分析の観点からみた
林業地域再生モデルの可能性
ー岡山県、京都府の事例を中心としてー
小堂 朋美 著

ISBN978-4-907209-10-0 C1336
A 5 判、88頁
定価：本体800円＋税

新 顔 紹 介

OMUP編集

中村 奈々



子どもの頃から文字や言葉が好きです。そういう子どものご多分にもれず、長じてからは活字中毒になり、活字中毒者のご多分にもれず、本そのもの（装丁やインクの匂い、しおりひもetc.）にも執着します。要するによくいるフツの大好きです。そしてフツの大好きのご多分にもれるかもれぬかは分かりませんが、変な日本語が気になって仕方がない。それらを耳にすると、必ず心の中で訂正する癖があります。こんな言葉に対する偏屈さ・偏狭さが、編集や校正の役に立っているのかあるいは邪魔をしているのか。まだまだ編集者としてひよっこゆえ、至る所で戸惑いながらつまずきながら、本に育ててもらっています。

大阪公立大学共同出版会事務局より

大阪公立大学共同出版会は、大阪市立大学および大阪府立大学における教職員と、本出版会の趣旨に賛同する者の自主的な参加を得て、研究・教育成果の発表を助成し、また民間出版社において採算上刊行を引き受けられないような優良学術図書の刊行頒布の事業を行い、学術の振興および文化の発展に寄与することを目的とし、

- (1) 会員の教科書および学術研究報告の刊行頒布
 - (2) 会員の学術図書の刊行頒布
 - (3) 会員のデータベース、ソフト等電子出版物の刊行頒布
 - (4) その他前条の目的を達成するために必要な事業
- などを行っているNPO法人です。参加を希望される方は、下記事務局へお問い合わせください。

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1
大阪府立大学中もずキャンパス内
NPO法人大阪公立大学共同出版会（OMUP）事務局
電 話：072-251-6533 ファクシミリ：072-254-9539
e-mail：omup@hs.osakafu-u.ac.jp
U R L：http://www.omup.jp/
入会金：一口一万円（終身会費）
振込先：三菱東京UFJ銀行 中もず支店 普通 3976510

編 集 後 記

皆様、新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変にお世話になり有難うございました。今年はOMUPという出版会の存在を一人でも多くの方に知っていただき、また少しでも身近に感じていただけるような広報活動を広げて行きたいと思っています。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。（児玉倫子）